

みどりの ニュースレター

6
2011
No.217

市民の発信で持続可能な社会をつくる

特集：誕生！

「日本の環境首都—水俣」

持続可能な地域社会づくり
これからは本当のスタートだ！

特定非営利活動法人

環境市民

¥200

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。



21世紀 地球を、地域を、生活を、持続可能な豊かさに
<http://www.kankyoshimin.org/>



Twitterやってます！
アカウントは kankyoshimin です。

みどりの ニュースレター

No.217 2011年6月号

編集員が行く！ 02

ちょっと自慢したくなる植物小話

**特集：誕生！「日本の環境首都一水俣」
持続可能な地域社会づくり これからが
本当のスタートだ！ 03-08**

行事案内 09

**みんなでつくる！ 交野が変わる！
環境基本計画づくり進行中 11**

第3回“交野市の環境基本計画策定”事業が新しいステージへ

とれたて 環境市民 12-13

面白く！楽しく！ お祭りのエコ化から地域づくりまで やってみよう！エコ地蔵盆 説明会開催！／環境市民の被災現地に対する支援活動／第ぐるっとびわ湖 自転車の旅 びわ湖一周サイクリング公式ガイド 発刊／原子力ポスターコンクール永久中止を求めて 約12000の要求署名が集まりましたへ

読者交流コーナー みどりのかわらばん 14

1/ 環境市民 15

「地域から国を動かす力になりたい」／小瀨 寛一さん

次号
予告

みどりの
ニュースレター

No.218
2011年7月号

現在
編集中！

特集：“オール電化でエコな暮らし”って本当？（仮）

オール電化は「CO₂が少なく電気代も安い」と宣伝されてきました。しかし実は、原子力発電の推進につながっています。魅力的な言葉で巧みに本質を隠すオール電化を検証します。

編集員が行く！

編集部のアンテナにかかった選りすぐりの
エコ情報を伝えます！

No.24 ちょっと自慢したくなる 植物小話

公園を散歩しながら、子どもと遊びながら、「こんなん知ってる？」とちょっと自慢したくなるような小話を、環境教育リーダー養成講座*（5月22日（日）開催 / 場所：京都御苑）の講師、板倉豊先生（京都精華大学教授）に教えていただきました。

昔、首飾りや指輪をつくってあそんだシロツメクサ。通常は3枚葉ですが、4枚葉はいわゆる“四葉のクローバー”として知られています。ところで、なぜ「シロツメクサ」という名かご存知でしょうか。実は、その昔、ヨーロッパで、ガラス製品を輸送するときの緩衝材、「詰め物」であったことからこの名になったそうです。日本には、家畜の飼料として入ってきた後、全国に広まりました。つまり外来種、だったんですね。ちなみに花が赤紫色をした「アカツメクサ」という種類もあります。

二つ目は桜。桜にちなんだお菓子といえば桜餅。桜はバラ科でいろんな種類がありますが、桜餅に使われている葉は、「オオシマザクラ」という種類のものに限るそうです。板倉先生は、ソメイヨシノなども塩漬けにしてみたそうですがやはり香りはオオシマザクラの香りが一番よかったそうです。

三つ目は、カタバミ。まずは汚れた10円玉をご用意ください。これにカタバミの葉の汁をこすりつけながら磨いていくと……あら不思議。ぴっかぴかになります。カタバミにはシュウ酸という成分が含まれ、汚れの元となる酸化銅を溶かす働きがあるそうです。子どもに見せれば、尊敬されること間違いなし！



植物と食べ物、人の歴史との関係を読み解くと面白い小話がたくさんできます。「知ることは感じることの半分も重要ではない」。レイチェル・カーソンの言葉を大切にしながら、雨上がりの緑をたっぷり楽しみたいですね。

（文 / ニュースレター編集部 有川 真理子）

※主催：京エコロジーセンター 企画運営：NPO 法人 環境市民

特集：誕生！「日本の環境首都」水俣

持続可能な地域社会づくり これからが本当のスタートだ！



2001年度から2010年度毎年開催してきた「持続可能な地域社会を創る日本の環境首都コンテスト」（主催：環境首都コンテスト全国ネットワーク）。最終回となった第10回には、待ちに待った「日本の環境首都」が誕生しました。本特集では第10回の結果概要とともに、これまで10年間を振り返り、今後の活動を展望します。

5月9日、水俣市で表彰式を開催しました。多くの市民を含む総勢約100人が参加する盛大なものになりました。17種類に及ぶ表彰状（写真）や副賞*の贈呈が行われました。質疑応答では「景観形成の取り組みは得点が伸びなかったが、市民として協力したい」「将来ビジョンをみんなでつくりあげる環境首都でありたいし、不便さを受け入れられる地域社会であってほしい」「今回満点には届かなかったが、満点をとるためにももっと情報公開をすすめてほしい、そしていっしょにがんばりたい」などの温かく積極的な発言が相次ぎました。

※ アーティストの赤瀬ミフサさんから絵画（作品名「実」）を寄贈いただきました。



表彰式参加者の記念撮影

column

WHAT'S ECO CAPITAL CONTEST?

日本の環境首都コンテストとは

ドイツ国内で、1989～1998年にかけてNGOにより開催された「自然・環境保護の連邦首都」を選出するコンテストにヒントを得、環境市民が呼びかけて環境首都コンテスト全国ネットワーク（当時、9NGO）を結成、2001年から10回連続で日本国内の市区町村対象に開催されました。狭い意味の環境にとどまらない、持続可能な地域社会を創るために自治体が取り組むべきと考える独自の質問・指標（15分野*、約80問）を作成し、エントリーした自治体が回答。NGOの視点で採点し、上位自治体を公表します。条件を満たした自治体には「日本の環境首都」の称号を贈りますが、第9回までひとつも誕生しませんでした。しかし最終回となる第10回、初めて熊本県水俣市がすべての条件を満たし、「日本の環境首都」が誕生しました。

質問を構成する15分野

※15項目の質問+自由記述で1000点、先進事例加点が20点 合計1020点

A	ローカルアジェンダ 21・環境基本条例・環境基本計画	(配点 95)
B	環境マネジメントシステム	(配点 45)
C	住民とともにチェックする仕組み・情報公開	(配点 45)
D	自治体内部における環境基本行動	(配点 45)
E	自治体との交流	(配点 40)
F	職員の資質・政策能力の向上、総合的な行政推進と予算編成	(配点 75)
G	住民のエンパワーメントとパートナーシップ	(配点 85)
H	環境学習	(配点 85)
I	自然環境の保全と回復	(配点 70)
J	健全な水循環	(配点 40)
K	風土を活かした風景づくり	(配点 55)
L	持続可能なまちづくりと一体化した交通政策	(配点 85)
M	地球温暖化防止・エネルギー政策	(配点 85)
N	ごみの減量化	(配点 60)
O	環境に配慮した産業の推進	(配点 60)

「日本の環境首都」の条件を大きく超えた水俣市の得点

「日本の環境首都」の条件は次の四つです。

- (1) 総合で第1位であること
- (2) 総合点が満点の70%以上であると（714点以上/1020点満点）
- (3) 15分野中、3分野以上が満点の90%以上の点数を得ていること
- (4) 15分野中、満点の50%以下の点数が3分野以下であること

水俣市は、条件（2）については、基準を大きく超える827点を獲得しました。

条件（3）については、「自治体交流」分野で97.5%、「健全な水循環」分野で90.0%、「環境に配慮した産業の推進」分野で91.7%を獲得しました。

永遠のライバル!? 水俣市と飯田市

水俣市とともに、今回総合第2位となった長野県飯田市も上記条件（1）を除いてすべての条件をクリアしました。飯田市の総得点は822点と水俣市とは5点差！飯田市は条件（3）で水俣市を超える4項目で90%以上を達成しています。

ひとつの自治体の採点は20人以上のスタッフが分担して行います。それぞれの専門性や経験を踏まえた採点結果を最後に突き合わせ、厳正なチェックをして総合得点が出されます。この結果がわかったとき、採点スタッフも悩みました。

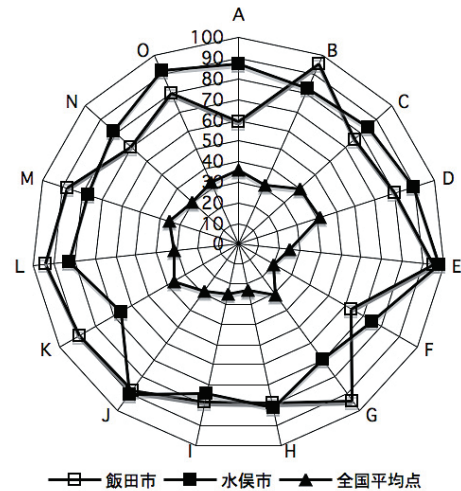
「1020点中5点は総得点のわずか約0.4%の差であり、できれば水俣市も飯田市も『日本の環境首都』の称号を贈りたい」。しかし当初の条件をまげることはいけません。でも飯田市も何かの形で努力を評価したい。結果として水俣市のみ称号を贈り、飯田市には顕彰の気持ちを込めて「明日の環境首都賞」を贈ることになりました。

得点では、水俣市、飯田市とも全参加自治体の平均値を大きく上回っています。また、両方ともグラフが円に近く、バランスのよさが目立ちます。

両市の第1回から第10回までの先進事例の合計数を分野別に見ると、水俣市はA,D,H,Nで、飯田市はB,E,G,L,M,Oで、コンテスト参加経験のある自治体229のなかで最多となっています。水俣市は市民との深いパートナーシップで幅広い環境まちづくりに取り組んでいます。一方、飯田市は環境マネジメントシステム

や地域経済振興で全国でも有数の先進自治体であり、公民館活動の先進地です。先進事例の数にも両市の特徴がよく出ています。

グラフ1 水俣市と飯田市の結果比較（得点率）



「日本の環境首都－水俣」市長のメッセージ

水俣市長 宮本 勝彬



これまでの道のりに思いを馳せながら、この大変な栄誉に深く感謝しつつ喜びを感じております。と同時に、この称号の持つ意味の大きさ、責任と使命の重さをひしひしと感じています。

水俣市は、本コンテストに2001年の第1回目から参加してきました。世界に類例を見ない水俣病という大きな環境問題の経験を踏まえ、そこから得た貴重な教訓から「環境モデル都市づくり宣言」を行い、住民協働により様々な環境施策を推進してきました。以来、ごみの分別・減量をはじめ、学校版・家庭版など水俣オリジナルの各種環境ISO、環境マイスター、村丸ごと生活博物館、など水俣方式ともいえるさまざまな仕組みをつくり、最近では環境モデル都市推進に係る五つの円卓会議、ゼロ・ウェイストのまちづくり宣言、自然エネルギーへの転換など、市民とともに数々の環境施策を進めてまいりました。

この間、市の方針としても「環境首都まちづくりへの挑戦」を掲げ、ついにこの日を迎えることができた次第です。高い意識で多くの環境施策に関わってこられた市民の活動と努力の積み重ねが、水俣市全体の力となり評価されたものであると考えております。

ところで、私たちが「日本の環境首都」の称号をめざしてきたことは、環境への取り組みを客観的に評価いただき、その結果をさらによりよく反映させていくため、称号の獲得が目的ではありません。私たちの

共通目標は、地球環境とそこに暮らすあらゆる生命と共生し、将来にわたって持続可能な、真の意味で豊かな暮らしやすい地域社会を創造していくことです。

3月11日に起こりました東日本大震災により、原子力発電所で重大な事故が発生し、いまだ収束しません。被災地のかたがたは、地震や津波という自然災害だけでなく、人災とも言える原子力発電所の事故によるさまざまな被害という苦しみを、現在も受け続けておられます。

今回、私たちはこの大震災により、自然災害はもとより、防災や、原子力エネルギー、環境汚染、生態系への影響といった数多くの問題、課題を突きつけられています。ただ何よりも優先されるべきは命の大切さ、尊さということは言うまでもありません。

水俣市の環境への取り組みの根底にある理念は、水俣病の教訓です。これは環境の大切さであり、命の大切さの教訓であります。

これらのことを踏まえながら、被災地への支援と併せて、水俣市は「日本の環境首都」として、全国の自治体と環境NGO、そして市民と連携、協力して、共通目標である持続可能な豊かな地域社会の創造にしっかり取り組んでまいります。

そして皆様とともに、地域から、日本をリードする、日本を変えていく、その牽引力となり続けることを約束いたします。

Eco capital
MINAMATA

第10回結果概要と結果の推移

全市区町村の13%が参加、しかし3分の1は継続参加ならず

今回参加した自治体は前回と同じ58でした（右表参照）。

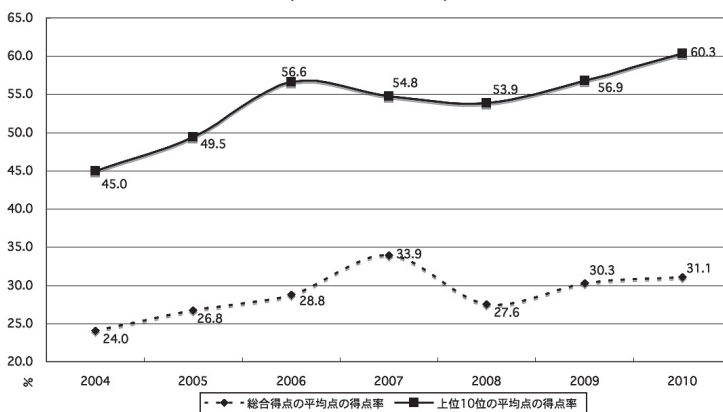
そのうち6自治体が初参加、4自治体が復活参加（第9回には不参加で第8回以前に参加経験あり）でした。第9回からの継続参加率は82.7%となり、大半の自治体がコンテストへの参加を有意義なものと考えている証左といえます。

一方でコンテストに1回でも参加経験のある自治体は229となりました。2011年4月現在の国内市区町村数1724の実に13%以上が参加したことになります。この数字はかなりの数であり、自治体の認知度も高まったと考えられます。ただし、コンテストに1回参加しただけで継続参加しなかった自治体は74自治体（全229の32%）あり、質問の部局横断性、分量の多さなどで回答の手間が大きく、参加のしやすさという点で課題があったことは今後の反省材料といえます。

平均得点率も上昇、上位10位では最高レベル

満点のうち、どれだけ得点したかを「得点率」といいます。グラフ2は、全参加自治体と上位10位にランクインした自治体の平均得点率の推移を示しています。2006～2008年度にかけて若干低下しましたが、これは質問内容と採点基準の高度化（施策の成果や住民参画プロセスの重視）が原因です。2008年度以降も質問の見直しを続けましたが、得点率は着実に上昇しており、自治体の取り組み状況の高まりがわかります。

グラフ2.全体と上位10位の平均点の得点率の推移 (2004～2010)



第10回参加自治体

自治体名	人口	初/復活*
1 二セコ町 (北海道)	4,662	
2 浜中町 (北海道)	6,655	復活
3 気仙沼市 (宮城県)	74,466	初参加
4 能代市 (秋田県)	60,370	
5 高畠町 (山形県)	25,662	
6 庄内町 (山形県)	24,677	初参加
7 遊佐町 (山形県)	16,023	
8 本宮市 (福島県)	31,571	
9 東松山市 (埼玉県)	89,521	
10 北本市 (埼玉県)	70,193	
11 八潮市 (埼玉県)	82,591	初参加
12 板橋区 (東京都)	536,433	
13 綾瀬市 (神奈川県)	82,907	
14 秦野市 (神奈川県)	170,434	復活
15 魚沼市 (新潟県)	41,424	
16 勝山市 (福井県)	26,040	
17 池田町 (福井県)	3,251	
18 山梨市 (山梨県)	38,197	
19 飯田市 (長野県)	105,324	
20 小諸市 (長野県)	44,439	
21 千曲市 (長野県)	62,587	
22 松本市 (長野県)	243,322	
23 多治見市 (岐阜県)	116,598	
24 磐田市 (静岡県)	174,646	
25 掛川市 (静岡県)	115,512	
26 岡崎市 (愛知県)	376,387	復活
27 瀬戸市 (愛知県)	133,450	復活
28 豊川市 (愛知県)	182,295	
29 碧南市 (愛知県)	73,158	
30 安城市 (愛知県)	180,751	
31 新城市 (愛知県)	50,746	
32 日進市 (愛知県)	82,056	
33 桑名市 (三重県)	142,198	
34 甲賀市 (滋賀県)	94,776	
35 福知山市 (京都府)	81,867	
36 京丹後市 (京都府)	61,370	
37 南丹市 (京都府)	34,659	
38 長岡京市 (京都府)	79,967	
39 八尾市 (大阪府)	271,931	
40 交野市 (大阪府)	79,117	
41 島本町 (大阪府)	29,611	
42 尼崎市 (兵庫県)	461,693	
43 明石市 (兵庫県)	292,743	
44 宝塚市 (兵庫県)	225,930	
45 加西市 (兵庫県)	48,081	
46 生駒市 (奈良県)	119,876	
47 北栄町 (鳥取県)	16,193	初参加
48 宇部市 (山口県)	174,572	
49 内子町 (愛媛県)	18,926	
50 四万十町 (高知県)	19,713	
51 佐賀市 (佐賀県)	236,402	
52 長崎市 (長崎県)	444,244	
53 対馬市 (長崎県)	38,481	初参加
54 南島原市 (長崎県)	52,576	
55 熊本市 (熊本県)	724,984	
56 水俣市 (熊本県)	27,655	
57 天草市 (熊本県)	92,858	
58 志布志市 (鹿児島県)	34,159	初参加

*復活：第9回には不参加で、第8回以前に参加経験あり



表彰自治体

今回のコンテストでは11種類の表彰を行いました。
 (1)～(5)及び(7)は従来からある表彰ですが、第10回を記念して(6)及び(8)～(11)の特別表彰を設けました。「全回参加 特別表彰」は、本コンテストに全10回皆勤で参加された自治体を表彰します。「環境に配慮した産業の推進」分野の産業別トップ表彰は、「O 環境に配慮した産業の推進」分野の6産業(農・林・水産・工・商・観光)ごとにトップを「環境と共生した〇〇業の推進」として表彰しました。「環境のまちづくり 飛躍賞」は、質問構成の安定した2004年度以降で初めて参加した年度の得点を基準として、今回の得点との差(上昇率)の大きかった自治体(トップ10)を表彰しました。「魅力ある環境のまちづくり 特別表彰」は、今回参加した自治体のうち、過去に参加した際に選ばれた先進事例を含む全ての先進事例数が10以上ある自治体を表彰しました。

表彰自治体一覧

1 総合順位(上位10自治体)

順位	自治体名	人口(人)	得点
第1位	熊本県 水俣市	27,655	827
第2位	長野県 飯田市	105,324	822
第3位	愛知県 安城市	180,751	687
第4位	愛知県 岡崎市	376,387	592
第5位	兵庫県 尼崎市	461,693	557
第6位	愛知県 新城市	50,746	555
第7位	熊本県 熊本市	724,984	546
第8位	静岡県 掛川市	115,512	533
第9位	山口県 宇部市	174,572	521
第10位	東京都 板橋区	536,433	514

2 人口規模別順位

第1群(人口2万人未満)	
第1位	愛媛県 内子町
第2位	山形県 遊佐町
第2群(人口2万人以上、5万人未満)	
第1位	熊本県 水俣市
第2位	山形県 高島町
第3群(人口5万人以上、10万人未満)	
第1位	愛知県 新城市
第2位	長野県 千曲市
第4群(人口10万人以上、30万人未満)	
第1位	長野県 飯田市
第2位	愛知県 安城市
第5群(政令指定都市を除く、人口30万人以上)	
第1位	愛知県 岡崎市
第2位	兵庫県 尼崎市

3 部門別表彰

地球温暖化防止部門		住民参画部門	
第1群(人口2万人未満)		第1群(人口2万人未満)	
第1位	愛媛県 内子町	第1位	福井県 池田町
第2群(人口2万人以上、5万人未満)		第2群(人口2万人以上、5万人未満)	
第1位	熊本県 水俣市	第1位	熊本県 水俣市
第3群(人口5万人以上、10万人未満)		第3群(人口5万人以上、10万人未満)	
第1位	愛知県 新城市	第1位	長野県 千曲市
第4群(人口10万人以上、30万人未満)		第4群(人口10万人以上、30万人未満)	
第1位	長野県 飯田市	第1位	長野県 飯田市
第5群(政令指定都市を除く、人口30万人以上)		第5群(政令指定都市を除く、人口30万人以上)	
第1位	兵庫県 尼崎市	第1位	愛知県 岡崎市

4 先進事例特別表彰

先進事例に選ばれた67事例中、特に高い評価となった29事例を表彰

5 奨励賞(5回連続参加賞)

静岡県 掛川市	第4群
兵庫県 宝塚市	
佐賀県 佐賀市	

※第6回から第10回まで連続参加された自治体のうち、これまで奨励賞を受賞していない自治体のみ表彰します。

6 全回参加 特別表彰

熊本県 水俣市	第2群
神奈川県 綾瀬市	第3群
愛知県 新城市	
愛知県 日進市	
京都府 福知山市	第4群
京都府 長岡京市	
長野県 飯田市	
岐阜県 多治見市	第5群
東京都 板橋区	
兵庫県 尼崎市	
熊本県 熊本市	

7 質問分野別表彰

	自治体名	得点/配点	得点率(%)
A	熊本県 水俣市	83/95	87.4%
B	長野県 飯田市	43/45	95.6%
C	愛知県 安城市	41/45	91.1%
D	熊本県 水俣市	40/45	88.9%
E	熊本県 水俣市	39/40	97.5%
F	熊本県 水俣市	56/75	74.7%
G	長野県 飯田市	80/85	94.1%
H	東京都 板橋区	71/85	83.5%
I	長野県 飯田市	55/70	78.6%
J	愛知県 岡崎市	37/40	92.5%
K	長野県 飯田市	49/55	89.1%
L	長野県 飯田市	80/85	94.1%
M	長野県 飯田市	74/85	87.1%
N	熊本県 水俣市	49/60	81.7%
O	熊本県 水俣市	55/60	91.7%

8 「環境に配慮した産業の推進」分野・産業別トップ表彰

産業	得点/配点	得点(30点満点)
農業	山形県 遊佐町 福井県 池田町	28
林業	愛知県 新城市	27
水産業	熊本県 水俣市	29
工業	長野県 飯田市	21
商業	東京都 板橋区	14
観光業	長野県 飯田市	27

9 全10回ベスト10 特別表彰

兵庫県 尼崎市	第4群
---------	-----

10 環境のまちづくり 飛躍賞 (総得点上昇率トップ10賞)

福島県 本宮市	+376	愛媛県 内子町	+125
京都府 京丹後市	+205.7	長野県 飯田市	+100
神奈川県 綾瀬市	+184.6	奈良県 生駒市	+92.7
静岡県 磐田市	+170.5	兵庫県 加西市	+81.4
京都府 長岡京市	+152.2	愛知県 日進市	+77.9

11 魅力ある環境のまちづくり 特別表彰(先進事例数10以上)

自治体名	先進事例数
長野県 飯田市	39
熊本県 水俣市	32
岐阜県 多治見市	21
愛知県 新城市	17
愛知県 安城市	17
長崎県 長崎市	15
福井県 池田町	15
山形県 高島町	14
山形県 遊佐町	14
熊本県 熊本市	13
東京都 板橋区	12
山口県 宇部市	12
北海道 二セコ町	11
兵庫県 尼崎市	11

※第10回に参加された自治体のみ対象とする。

明日に向かって

10年間おつかれさまでした！

コンテストの10年間、準備期間を入れれば15年近くの月日が経ちました。終わってみれば光陰矢のごとし(?)。これまで、ボランティアスタッフたちは本業の傍らの活動で毎年十分振り返る暇もなく、「忙しい〜しんどい〜」とぼやきつつも、社会を変える、自治体を変えるというミッションのもと、しんどさ以上に楽しみ、学び、育ってきました。コンテスト開始のときから関わってきたメンバーにこの10年間の率直な感想を聞いてみました。

藤野 完二さん
(未来の子 共同代表)



10年間が過ぎ、「やれやれ終わった〜」「年取った」が正直な感想です。自分の役割としては、当初は積極的な発言を心掛けましたが、今は「できるだけ発言を控え、若い方々を支える」に変わりました。

地球の限界が現実となり始めています。地球の限界を前提にした持続可能な社会づくりへの発想の転換が急がれます。その舞台は地域社会です。その意味で日本版「環境首都」に大きな希望を感じます。水俣市には、市民が求める理想の環境都市として全国の自治体の範となりリードしてほしいと願っています。

安藤 多恵子さん
(ふるさと環境市民 副代表)



なんとしても10年を継続しなければ、という思いに支えられて必死にみなさんについてきました。その結果日本で初めての環境首都を生み出すことができた。感激です。ネットワークのちからです。ありがとうございます！

しかしまだまだ環境首都の大切さが社会に浸透していません。首長に直接はたらきかけて「政策」としてのとりくみを促していくことも必要でしょう。30年後、50年後、100年後のまちに私たちはもっと責任をもたなければいけない、それにはどうしたらいいか、とみんなで考えていくこと、行動していくこと。そういう機会をたくさんつくっていくことがNGOの役割だと感じています。

内田 洋子さん
(くらしを見つめる会 代表)



「10年間、やりましたね！」自治体の担当者からも、友人からもねぎらいの言葉をかけてもらいました。この10年間で多くのことを学び、自治体の示唆にとんだ取り組みに元気づけられてきました。コンテストと同時並行で開催した「地域交流会」や「環境首都をめざす自治体全国フォーラム」などで首長や自治体職員の方々が環境対策について濃密な討議を行い、連携がとれるようになったこと、そしてのNGOネットワークと自治体の発展的なつながりができたことが何よりの成果だと感じます。

地域で持続可能な暮らし方が自然にできるという社会の仕組み、そして地域の人が仲良く暮らせるということが私の持続可能な地域社会のモノサシです。コンテストの質問票や先進事例はそのヒントとなります。また、この10年間で事例が少しずつ増えてきたグリーンコンシューマーの考え方を広めることも役に立ちます。ぜひ、地域でモノサシづくりをはじめましょう。

渡辺 敦さん
(かながわ環境教育研究会 代表)



この膨大な作業を10年間に渡りやり遂げた一人ひとりの熱意とネットワークの力に乾杯！歴史に残る輝かしい活動であり、私たちもその一端を担わせていただいたことを誇りに思います。

自分自身もコンテストに関わる中で自治体の総合的な政策について提案できるようになり、自治体に対する活動範囲を広げることができるようになりました。

環境首都コンテストは10年で終了しますが、持続可能な地域社会づくりの活動は、まだまだ峠を越えたとは言えない状況です。この度の震災・原発事故を大きな契機として、「心豊かで持続可能な地域社会づくり」に向け、革命的变化を始めようではありませんか！

今後の展望

～環境首都コンテストの成果を活かして



秋本 育生 (本会 代表理事)

日本の環境首都コンテストは「地域から日本を持続可能で豊かな社会」に変えていくことを目的としてきました。この10年間の継続実施により、その基盤はできたと考えます。今後、この目的を達成していくために、政策の評価、議論を通じて強い信頼関係を醸成してきた自治体と共に、地域から社会を変えていく様々な政策の考案を行い、モデル自治体での実行と検証等を通して、日本社会への変革提言を影響力ある形で進めていこうと考えています。そのスタートは一昨年度から始め

た「環境首都をめざす自治体全国フォーラム」での共同政策提案ですで行っています。またこの全国フォーラムの継続発展とともに、地域ブロックごとの政策提案者会議と市区町村長サミットを広げていく予定です（中部地区では昨年度から開始しました）。このような活動を継続的かつ内実あるものとするため、自治体、さらには大学などと私たちNGOとで戦略的ネットワークを、本年内に正式に形成する予定です。

2011年度以降の活動について

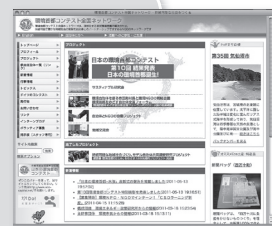
コンテストの終了に伴い、これまで活動を続けてきた環境首都コンテスト全国ネットワークを改組し、今後の活動母体として環境首都創造NGO全国ネットワークを発足させました。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。現時点で決まっている具体的なプロジェクトの概要をお知らせします。

これら以外にもこれまでの蓄積をいかした活動が考えられます。ともに活動するボランティアも募集しています。

	地域公共人材の育成と流動化の仕組みづくり
1	中部地区の5市で流動化の実例づくりをすすめながら、仕組み構築に向けた課題を抽出、解決策を検討します。広く活用できる流動化のセンター機能を立ち上げる予定です。
	中部5市環境サミット
2	2010年度、愛知県安城市の提案で初めて開催されました。第2回は今年の夏、静岡県掛川市で開催予定です。
	九州地域市町村長サミット
3	持続可能な地域社会づくりに向けた課題の具体的な解決をめざして、九州地域の市町村長が継続的に政策を議論する機会をつくります。
	環境首都創造フォーラム2011in新城
4	全国から有志自治体の長が集まり、NGOとのディスカッションを通して共同提言を出します。2011年10月19～20日に愛知県新城市で開催が決まっています。
	次期コンテスト、自治体評価の仕組み調査研究
5	参加自治体から要望が強かった環境首都コンテストの継続について、ベーシック版、分野別、総合版などの新たなコンテストの実施可能性を積極的に検討します。
	環境自治体ベストプラクティスデータベース作成のための基礎調査
6	収集した688の先進事例を仕分け、追加調査、更新し、ベストプラクティスを選んで公表します。

今回の特集でお伝えできたことは、ごく一部です。今後、次の活動につなげるために10年間の活動の分析、総括を行い、ウェブサイト (<http://eco-capital.net/>) などで情報発信していく予定ですので、ご期待ください。

最後に、コンテストに参加いただいた自治体、支援していただいた皆様、そしてこれまで10年以上にわたり助成金で支援をいただいた独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金に厚く御礼申し上げます。



<http://eco-capital.net/>

今回の特集は風岡 宗人 (本会事務局) が担当しました。



行事案内 6月

京 環境市民 東 環境市民東海 滋 環境市民滋賀

京 第10回 NPO 法人環境市民 通常社員総会 同時開催セミナー

3月11日におきた東日本大地震は、日本全体に甚大な被害をもたらしました。大津波による被害、福島原発事故の影響による深刻な状況が続いています。

本会は、これまで原発に頼らない社会や暮らしが可能であることを伝えてきました。「脱・原発」には、私たち自身が今後どのような社会を構想し選択するか、そのためにどのような暮らしや制度、経済を創っていくかが問われています。

「脱・原発」の必要性、可能性とともに、本会のめざす「環境のまちづくり」について具体的な事例を交えて提案します。

- *と き：6月18日(土) 午後2:30～4:30
- *ところ：京エコロジーセンター 1階シアター
(京都府伏見区深草池ノ内町13)
- *講師：枚本 育生(環境市民代表理事)
堀 孝弘(環境市民事務局長)
- *定員：100人(定員になり次第締切)
- *参加費：環境市民会員・無料、非会員・300円(資料代)
※カンパ歓迎

当日プログラム詳細

- ★講演会の前には、第10回 通常社員総会を実施します。
- ◎第10回 NPO 法人環境市民 通常社員総会
(午後1:00～2:15)
- 2010年度の活動報告や2011年度の活動紹介を行います。誰でも参加できます。会員は、「社員登録」すると議決権を得られ、運営に参加できます。

- ★講演会の後には、エコ交流会を開催します。
- ◎エコ交流会(午後4:45～6:00 終了予定)
エコフードを囲みながら、参加者みなさんで交流しましょう。はじめての方もお気軽にご参加ください。
- ☆交流会は一人300円。当日お支払いください。

[申込み]

- 第1部の総会、第2部の講演会、第3部の交流会は事前参加申込みが必要です。お名前、ご住所、電話番号、あればEメール、第1から第3部の出欠を、電話、FAX、Eメールにて、京都事務局にお申し込みください。
- ★メールタイトルに【環境市民総会セミナー申込み】と入れてください。

滋 三田川の川づくり

これまで、大津市石山三田川では、地元の住民の方々と共にビオトープ作りをやってきており、小学生なども含めて、さまざまな活動を行ってきている。今回、小学生などの参加により、水生生物観察会や植物の植栽を行う。

- *と き：6月12日(日) 午前10:00から正午
- *ところ：大津市石山三田川周辺
- *共 催：おおつ環境フォーラムいきいき河川グループ
- *締 切：6月10日
- *参加費：無料

行事の申込み・お問い合わせは各事務局まで

- 京 環境市民
TEL.075-211-3521 FAX.075-211-3531
IP電話.050-3581-7492 MAIL.life@kankyoshimin.org
- 東 環境市民東海事務所
TEL・FAX.052-521-0095 IP電話.050-3604-6182
MAIL.tokai@kankyoshimin.org
- 滋 環境市民 滋賀事務所
TEL.077-522-5837 MAIL.cefshiga@kankyoshimin.org

新入会/寄付 (4月1日から4月30日まで)

〈新入会〉小泉 仁/鈴木 ミエコ/野口 扶美子/堀江 節子
向井 弓子/安田 久美江/吉村 直子
〈寄付〉青木 里佳/伊藤 省二/内田 香奈/笠井 一朗/北村
ますみ/角出 貴彦/高林 伸樹/田澤 安曇/西村 さおり/
林 公子/速水 祐一/山内 洋/渡辺 佳子/脱原発セミナー
参加者/なでしこ塾一同

新入会員
インタビロー

よしむら なおこ
吉村 直子 さん
(京都府在住) 4月25日入会

3月の震災後、政府やマスコミがどこか保守的な態度で原発に関する情報発信をしている中で、独自のユニークなスタイルで「反対!」と訴える環境市民の姿勢に感心し、今回、社員登録もしてお手伝いすることにしました。今後はNPOの経営方面を勉強しつつ、できれば、エコの視点を取り入れた病院づくりなどに関わってみたいです。

🌸 今月のありがとう お力を貸してくださった方々に、感謝をこめてー。

- (ニュースレター発送)
衣川 正和 / 山形 七日
- (日独チャリティーコンサートお手伝い)
衣川 正和 / 武田 麻里 / 藤井 千穂
- (翻訳ボランティア)
楊 生波 / 楊 生虹

環境基本計画づくりが進行中

環境市民がコーディネートする交野市環境基本計画策定事業を隔月で紹介します。

“交野市の環境基本計画策定”事業が新しいステージへ

交野市でも感じた今回の大地震

この度の東日本大震災で被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。3月11日、交野市役所での打ち合わせの最中、会議室が揺れました。“ゆっくりとした長い横揺れ”で、少し不気味な感じがしました。これが今回の大震災の揺れだったとは、いまだに信じられない気持ちです。

12回の学習会

交野市では、行政だけで策定するのではなく、まちに暮らす市民や事業者を加えた三者協働による環境基本計画策定事業を進めており、環境市民が本事業のコーディネートをしています。2010年10月から2011年3月までの6か月で12回の委員会を開催し、地球温暖化問題、公共交通、里山、エネルギー、まちづくり、ごみ問題など、テーマ別に専門の講師を呼び、学習を重ねました。

交野の環境のまちづくりのヒントを学ぶ



環境問題の解決にむけ、人々の意識や行動変化に働きかけるのが環境教育と講演される西村先生

“地球温暖化”問題では、シャワーを一分短くするといったようなコマメな対応だけでは止まらない。社会の仕組みを変えていくことが大切であること。“ごみ問題”では、ごみの発生を減らすことの大切さを。“里山・自然”では、自然に手を入れて管理することや、地域に合った植生が大切であることなどを学習しました。“交通問題”では、交通問題を解決することによるCO₂削減効果が大きいこと、また、市民の力ではどうしようもないと思われがちな公共交通も、市民が関わって解決に一步近づいた事例があることを学びました。“環境教育”では、環境問題に対する人々の意識や行動変化に働きかけるのが環境教育であることを学びました。“エネルギー問題”では、自然エネルギーの普及と同時に、雇用の確保も実現したドイツの事例を学びました。また、飯田市など日本の地域から自然エネルギー普及を進めるユニークな取り組みが生

まれていることを学びました。

そして、“環境を活かしたまちづくり”が、まちに活気をもたらすこと。そして、行政と一体となった市民の力で、実際にまちを変えたいいくつかの自治体の先進事例を学びました。委員のみなさんは、このこうした先進事例の数々を通して、“動かせる”環境基本計画作りの真髓を感得されたのではないかと感じました。

ごみ処理関係施設の見学と、交野市のシンボルである“天の川”と“森林・竹藪”の観察と2回のフィールドワークも行い、教室と現場での多角的な学習の機会と問題発見の機会も持ちました。

各会の学習会では、交野市が環境のまちづくりをすすめる上での問題点の洗い出しもしました。バスなどの公共交通が不便だ、里山



問題点の洗い出しの結果をグループ発表される委員の皆さん

が放置されている、天野川が汚い、恵まれた自然が生かされていない、自然エネルギーの普及が必要だ、環境教育が大切だ、道路が狭く通行に危険だ、ごみ問題の対応が必要だ、環境を活かした魅了あるまちづくりを……など、さまざまな問題があげられました。

必要な部会を検討

新年度からは、今までの学習や問題点の洗い出しをベースにしながら、解決策を考えていくため、どんな部会が必要かを委員会で考え、最終的にいくつか設置します。これらの部会の中で、再度、交野市で環境のまちづくりをすすめる上での問題点を検討しながら、課題解決を生み出す方向へと進んでいきます。

今年度第1回の4月12日（火）は必要な部会について議論しました。必要な部会の大筋は見えたので、今後は、部会の決定と各委員の皆さんが希望する部会を決定していきます。どんな部会が設置されるか、興味津々です。

交野環境プロジェクトが、いよいよ本格的に交野の委員さんの力で始動しようとしています。次回はその様子を詳しくお伝えします。

(文/交野市環境基本計画策定コーディネーター 加藤 昭)

面白く！楽しく！ お祭りのエコ化から地域づくりまで やってみよう！エコ地蔵盆 説明会開催！

京都で毎年実施されるお祭り「地蔵盆」に、環境配慮の視点を取り入れることを提案した「エコ地蔵盆」。主な提案は二つ、①健康にも環境にもやさしい食べ物を提供しよう②できるだけごみがでない工夫をしようというもの。環境市民が町内と一緒に取り組みはじめ、今年で6年目のプロジェクトです。さらに多くの町内でエコ地蔵盆を広げたいという思いで、4月17日、京都教育文化センター（京都市左京区）で説明会を開催しました。参加者は、地蔵盆を盛り上げたい！という思いを持った町内会の役員さん、区役所の方、大学生を合わせて21人でした。前半、エコ地蔵盆の提案やねらいを説明した後、実際に取り組んだ町内の二人の方をゲストスピーカーに迎え、取り組みのきっかけや工夫を紹介していただきました。



ゲストスピーカーお二人からの説明を聞く参加者

■取り組みのきっかけ

一人目のスピーカーは、2006年に町内の役員になった長屋 博久さん（中京区天守町）。長屋さんは、地蔵盆の内容に、「エコ」の視点をいれると面白いかもしれないと思いついた、エコ地蔵盆発起人の一人。ごみを減らしたい、エコロジーという考え方を知ってもらいたい、多世代交流をしたいという想いからさまざまなプログラムを実行しました。エコバッグづくりや環境紙芝居の開催、福引き景品のおもちゃは脱キャラクター、自作で遊べるものにするなど、工夫を凝らした内容を考え、子どもたちが会場にいる時間を長くしたことで、大人たちも顔を見せるようになり、賑やかな地蔵盆になったことが紹介されました。

二人目は、2007年に町内会長になった高林 伸樹さん（北区大宮薬師山町）。約150人の子どもが集まる大規模な地蔵盆を実施しました。毎年決まりきった内容に飽きていた上級生も楽しめる内容にしようというアイデアを出し合い、目玉となったのが、「自分たちの住んでいるまちを好きになりたい」という思いで企画した、町内のスタンプラリー。また、おやつは、地域のパン屋さんでつくってもらった添加物の入っていないパンにするなど、地域を巻き込んだ仕掛けもしました。景品のおもちゃは、買い物好きなお母さんに、電

気や電池を使わずできるだけ長く使えるものを購入してもらいました。お金をかけずに手間隙をかける、工夫する過程を楽しむ、それが「エコ」の楽しさだと取り組みを振り返って説明されました。

■エコ＝面倒くさい？を変えるコツ

後半は、エコ地蔵盆に取り組むステップについて、参加者全員で話し合いました。参加者からは、「地蔵盆の内容は役員の持ち回りなので、マニュアル化した引継ぎがないと実施は難しい」。「エコ＝面倒くさい、お金がかかるという意識を変えるコツはあるか？」との質問がありました。高林さんは、エコの取り組みは「面倒くさい」と「楽しい」のバランスで、楽しいが上回るようになれば、取り組みに賛同する人が増えると説明されました。

コーディネーターの内田香奈（エコ地蔵盆チームボランティア）からは、継続して実施している町内の例として、新しく役員になった人が、前年度経験したエコ地蔵盆の面白さを覚えていて継続されたことが伝えられました。ゲストスピーカーのお二人のお話からは、たとえば、買い物好きのお母さんには買い物担当になってもらったり、地域のお店に協力を得たり、地域の人が適材適所で得意なことを活かしていくことで、面倒くさいも楽しいに変わり、地域全体を巻き込んだアイデアが生まれることや、プログラムを工夫することで、大勢が集える地蔵盆になることがわかりました。

■エコ地蔵盆のエッセンス

最後に、町内それぞれの個性が発揮される地蔵盆に、環境のスパイスを入れて盛り上げてほしいこと、環境負荷を下げる取り組みを通じて、町内の人が自分の地域のことを考えて行動するようになっていくことも大事なポイントであることを伝えました。説明会終了後、参加者からは、「具体的なプログラム案から、楽しい町内にするコツまでを聞いて面白かった」との声があがりました。エコ地蔵盆は、環境という視点をきっかけに地域力を育てる効果があるという点で、地域のあらゆる行事に汎用できます。地域から社会を変えていく取り組みとして、ますます浸透させていきたいと思います。（文/事務局 岩崎 恵美子）

エコ地蔵盆の提案や、町内の事例を紹介した冊子はこちらから
URL：http://www.kankyoshimin.org/modules/activity/index.php?content_id=14

環境市民の被災現地に対する支援活動

今年3月11日に発生した東日本大震災は、言葉では形容のしようのない被害をもたらしました。あわせて発生した原発事故に対して、環境NGOとしての情報発信を続けてきましたが、以下、被災現地に対する支援活動について報告をします。

環境市民は1995年の阪神淡路大震災では、神戸市内に出張所を設け、行政の手が届いていない被災者への支援活動に数か月間取り組みました。しかし、今回は被災地までの距離だけでも千km以上あるなど、環境市民単独での支援活動は難しく、神戸市内に本拠を置く、認定NPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り（略称HANDS）が取り組んでいる「TASUKIプロジェクト」に協力して、被災地支援に取り組みました。

TASUKIプロジェクト

HANDSは、1995年の阪神淡路大震災で被災した人たちが中心となって設立された団体で、TASUKIプロジェクトは、



物資をトラックに積みこむ様子

「大切なもだちにささやかなプレゼントを」をコンセプトに、自分と同じぐらいの年齢、背格好の被災者を想定し、友だちにプレゼントを贈るつもりで、今何を送ったら役立ち喜んでもらえるか考えて作ったセットを、一般市民から募り、それを被災者に届ける取り組みです。東日本大震災の後、環境市民からHANDSに協力を申し入れたところ、HANDS代表の堀内正美さん（本職は俳優）はとても喜んでくださり、一緒に取り組むことになりました。

今回の東日本大震災では、全国の自治体、警察、消防、自衛隊も多くの人員を被災地に送り、大量の支援物資を被災地に送る企業もありました。一方、当初は個人からの支援物資の受け皿が被災地になかった状況であり、個々の市民にできることと言えば、義援金の募金ぐらいしかなく「もっと何かしたい」と考えていた人たちから共感を得ることができました。環境市民でも3月16日から新聞やラジオ、インターネットを介して、TASUKIプレゼント（支援物資、以下TASUKI）の提供を市民に呼びかけたところ、予想以上の反響を得ました。環境市民の事務所は狭く、期間限定で近所の幾つかの空き事務所を無償で貸していただきました

が、それらも一杯になりました。

現地へのTASUKIお届け、第1便から第2便

3月29日に第1便が神戸から京都経由で気仙沼市や陸前高田市に向けて出発しました。この時は神戸で1,200程度、京都で600程度のTASUKIを積み込みました。第1便に堀も同行しましたが、まだこの時点では被災地は混乱していて現地に受け皿が来ていたわけではありません。TASUKIをあちこちの避難所に配ってまわったという感じで、これを受け取った人に、この取り組みのねらいがどこまで伝わったか疑問もありました。



TASUKIプロジェクトの物資を受けとった人

第2便が出発したのは4月12日です。第1便の出発がテレビニュースでも報じられ、さらに多くのTASUKIが集まりました。しかし広く報じられるほど取り組みの詳細が伝わらず、被災者に送れないものも届けられ、数の多さと選別作業で4月上旬の環境市民事務局は大変な状況になりました。この頃、TASUKIは京都だけでも1,400ほど集まり（神戸は3,000）、10トン以上のトラックが必要となり、京都市役所前広場を借りて積み込みをしました。第2便では神戸や東京のライオンズクラブが全面的に協力し、現地では福島県、宮城県、岩手県のライオンズクラブが受け皿になり、避難所にTASUKIを届けてくれました。また、東北までの搬送は神戸のヤマト運輸が協力してくれました。

TASUKIプロジェクトの今後

この第2便でHANDSの堀内代表らが被災地をまわりながら、今後の協力関係を築いていく集落も見つけ、第3便（4月29日）以降、その集落をおもな拠点に、TASUKIの提供だけでなく、被災家屋のガレキ撤去や生活支援など、Face to Faceの活動を続けています。第3便には堀も同行し、環境市民ウェブサイトのブログで報告しています。

環境市民ブログ「事務局長 堀が行く」

http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?cat_id=6

最後に、TASUKIプロジェクトに物資をおよせくださったみなさん、荷物の仕分けをお手伝いいただいたみなさんに心よりお礼申し上げます。

（文/事務局長 堀 孝弘）

ぐるっとびわ湖 自転車の旅 びわ湖一周サイクリング公式ガイド 発刊

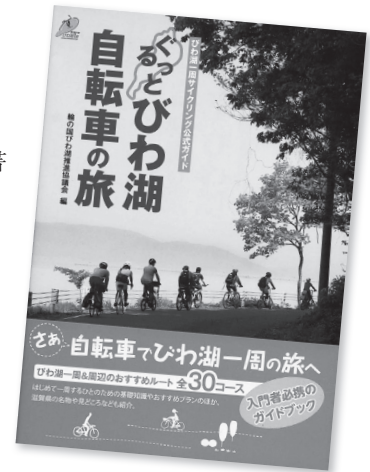
びわ湖の自転車利用を推進し、環境保全と健康と脱クルマ社会をアピールすべく活動する「輪の国びわ湖推進協議会」*では、このほど「ぐるっとびわ湖 自転車の旅 びわ湖一周サイクリング公式ガイド」を制作・発刊しました。

びわ湖一周（通称ビワイチ）は日本屈指の人気ツーリングコースであり、いつかはチャレンジしたいと考えるサイクリストは非常に多いのですが、いざ出かけようとしても、「道路の状況は？ もしパンクしたら？ 休憩場所は？ 自転車で立ち寄れる美味しいお店は？」といった疑問に答えるガイド本が書店で見つからないのが実状でした。そんな必要に応えるべく企画された本書は「京都自転車マップ」同様、びわ湖とその周辺の地図、制作スタッフが実際に走って調査・取材した道路情報、自信を込めてオススメする30のサイクリングコースとスポット、自転車の旅に役立つ知識・データなどを満載した力作です。ぜひ本書をお供に、自転車でびわ湖へお出

かけください。主要書店で発売中。

A5 112p オールカラー
1,260円（税込）
京都新聞出版センター

* 輪の国びわ湖推進協議会には環境市民も構成団体として参加しています。



●お申込み方法

郵送をご希望の場合は、お名前・ご住所・FAXまたは電話番号・E-mailで希望冊数を明記の上、「ぐるっとびわ湖」と記入し、FAXまたは電話番号・E-mailのいずれかで環境民事務局までお申込ください。お申込から1週間程度のお時間をいただきますので、ご了解ください。送料1冊80円、2冊160円、それ以上の冊数をまとめてご注文の場合は事務局までお問合せください。お支払いは郵便振込み後払いになります。振り込み手数料はご負担ください。

原子力ポスターコンクール永久中止を求めて 約12000の要求署名が集まりました

文部科学省、資源エネルギー庁では、1993年以降、毎年、「原子力や放射線についての理解と認識を深める」ことを目的とし、原子力ポスターコンクールが行われていました。

その実態は、原子力や放射線について、「地球にやさしいもの」という誤った認識を子どもたちに伝え、また、子どもたちから「原子力は温暖化を守るもの」「原子力は未来に必要なもの」といった発信をさせるものです。

福島第一原子力発電所で、大量の放射性物質が放出

され、私たちの生存に欠くことができない水や食糧にも大きな不安が広がっています。この状況を鑑みると、到底地球に優しいとは言えません。

そこで、環境市民をはじめ、賛同する団体、個人が呼びかけ人となり、4月から5月31日まで、同コンクールの永久中止を求めて署名を集め、5月24日現在、11964人の署名が集まりました。2011年度と同コンクールの開催は見合わせることになりましたが、永久中止を求め、6月上旬に政府に要望書と署名を提出する予定です。

【団体】NPO法人環境市民、国際環境NGO FoEJapan

【個人】 枚本育生（NPO法人環境市民理事）、羽田野晃弘（xChange理事・事務局長）、丹羽順子（環境ジャーナリスト）、星川淳（作家・翻訳家）、四宮成晴（NPO法人土佐の森・救援隊理事）、藤野完二（環境カウンセラー）、内田洋子（くらしを見つめる会）、宮北隆志（NPO環境ネットワークくまもと代表理事）、岡本佳美（株式会社アム代表取締役）、野田治美（NPO法人BeGoodCafe理事）、木村輝一郎（映像ディレクター/abovo）、飯田哲也（NPO法人環境エネルギー政策研究所所長）、槌田劬（NPO法人使い捨て時代を考える会相談役）、山田岳（ただすのもり環境学習研究所）



みどりの仲間たち

♣ 持続的社會を旨として活動する仲間たちです

『人をつないで脱原発をめざす市民団体「グリーン・アクション」』

グリーン・アクションは、人と人をつないでいくことによって国策としての原子力発電を終わらせて、省エネを柱としたより効率的でクリーンなエネルギーへシフトをしていくことを目的として、1991年に設立されたNGOです。代表はアイリーン・美緒子・スミスです。

福島原発の事故に関しては、子どもと妊婦を放射線の害から守るために、政府や国会議員に働きかける活動を他のNGOと協力して行っています。また、マスメディアや英文のブログなど情報発信することで、海外の人々と日本の人々をつないでいます。

地元の関西でも、関西の市民団体と協力して原発を止めるための

活動を行っています。関西の住民の生活用水は、琵琶湖の水です。琵琶湖の北湖は、原発からとても近いところにあります(若狭の原発から30~50km)。若狭の原発で今回のような事故が起きたらどうなるでしょう。琵琶湖は関西にとって命の水がめです。関西の人々がみんなで協力して若狭の原発を止めるため、「琵琶湖の水がみんなのいのち・さよなら原発ネットワーク」を京阪神の市民と立ち上げたところです。京都では、「バイバイ原発・京都」のパレード&デモに参加したり、市民団体の「若狭の原発を案じる府民」などと一緒に京都府の防災課へ行き、防災計画の策定に際して若狭の全ての原発を対象とした防災計

画にすること、また放射能の影響を受けやすい子どもを守る視点から、計画の対象範囲を京都府全域に広げること、策定に当たっては、府民対象に意見募集を行い、京都府下の住民(特に北部)が策定プロセスに関わることができるようにすることなどを訴えています。

グリーン・アクションのウェブサイト
www.greenaction-japan.org/

(文/グリーン・アクション
溝淵 由起さん)

((インフォ@エコ

♣ 環境に関するオススメの本、映画、音楽などを紹介します。

環境政策の政治学 —ドイツと日本—

坪郷 實、2009年、早稲田大学出版部、3000円+税

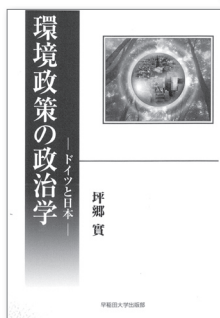
この本は、ドイツの環境政策の展開を歴史的な流れで追いながら、環境政策について分かりやすく説明しています。

本書によると、ドイツでは1970年に環境政策が開始され、基盤となる政策が創出されました。1998年にはドイツ社会民主党、緑の党のいわゆる「赤と緑の連立政権」が誕生。ここからドイツは、環境政策の目標を他の政策に統合する「統合的環境政策」の視点を用いるようになります。たとえば高い失業率と環境問題の同時解決を目標としたエコロジー税制改革では、環境に負荷をかけた人が環境税を払い、その税収を雇用対策の財源に充てる仕組みがつけられました。他にも、ドイツは連邦と州の権限を分離し地方の力を高める連邦制改革や、国家の枠を超えてEU全体としての地球温暖化防止政策に取り組んでいます。

いくつかの政策は、ドイツの環境団体が政策提案を行ったものもあり、市民の強い環境意識と政治の参加度の高さを感じさせます。ドイツの取り組みとの比較の中で日本の現在の課題が見えてきます。

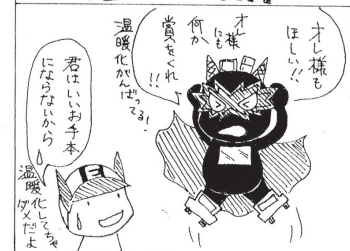
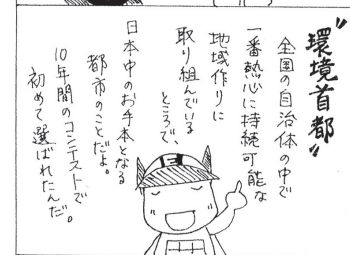
環境政策に関心がある人にも、ドイツに興味がある人にもお薦めの一冊です。

(文/環境首都コンテストボランティアスタッフ 前川 遥)



SKIP! エコファイト劇場

vol.53



環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコファイト劇場」をモチーフとしています。

イラスト...かわみん

ご意見・ご感想宛先: メール・FAX・郵送でお送りください (MAIL)newsletter@kankyoshimin.org (FAX)075-211-3531 (郵送)〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階NPO法人環境市民 みどりのニューズレター編集部 宛



環境市民

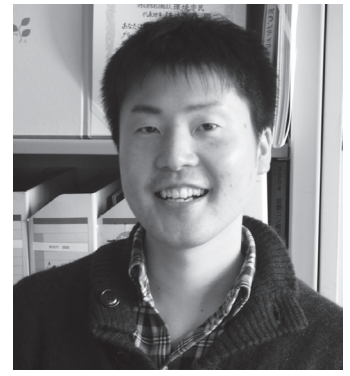
かんきょうしみんぶんのいち

★環境市民の会員を紹介します

こはま ひろかつ
小瀧 寛一さん

no.73

立命館大学国際関係学部で学ぶ。大学院公務研究科(修士)にすすみ、1回生のとき環境市民に出会う。現在は自治体の職員として奮闘中。



「地域から国を動かす力になりたい」

■インターンが環境市民との出会い

小瀧さんが環境市民と出会ったのは、大学院の一回生の七月。インターンを希望して事務所を訪れた。その時、小瀧さんは学部を修了して、社会に出る前にもう少し学びたいと大学院に入って勉強を続け始めたところだった。比較的時間が自由になり、国家公務員になるべく勉強をしながらも、何か社会とのつながりが欲しくなったのだ。一人での勉強は閉鎖的で、ともすれば一人よがりになってしまう。それに、これからの社会に向けて、環境のこともっと知りたい。そんなときに環境系のゼミで名前がちらほら出てくる環境市民に興味を持った。

「社会とつながりたい」から、環境市民での事務局ボランティア(組織マネジメント)と環境首都コンテストのインターンのどちらかを考えていた小瀧さん。「日本の自治体はいろいろ面白い取り組みをしている」と聞き、環境首都コンテストのインターンをすることにした。

■中国で植林ボランティアを体験

社会とつながりたいという思いは、大学時代からあった。日本の大学生としてボランティアで中国に派遣され、2週間の滞在中に植林をするというプログラムに何回か参加し、現地の人も交流していた。でも、「そ

の場だけ、継続的なつながりで現地の人とかかわれない。何かを変えていきたいでもそこまでなんです」ふつふつと、やりきれなさを抱えていたところだった。自分には何ができるのか、何がしたいのか、わかっているようで、わからないところがあつた。所詮は「学生だから、かかわれるところは限定的な腰かけ状態」というやりきれなさがあつた。

環境首都コンテストでは、尼崎、明石、能代の3自治体を担当した。能代のバイオマスなど、地域ごとの特徴を生かした施策に触れていた。自治体の方と実際に話す機会を得たことや、環境政策について学ぶことは、将来、公務員として環境政策にかかわりたいと思っている小瀧さんには大変意義のあることだった。首都コンテストは、たとえ学生であっても、最後までちゃんとやり遂げる必要のある大きなプロジェクトである。最初不安だったが、仲間や先輩たちとの支えあいでやり遂げた達成感は大きかった。

■全国フォーラムで地域に開眼

小瀧さんはもともと国家公務員を志望していた。環境省の職員となり、国を変えていく力になりたいと思い、大学の4年間で就職を決めず、大学院というモラトリアムの期間をとり、自分を見つめつつ、ちゃんと納得して進路を決めたかった。勉強と

環境市民の環境首都コンテストのインターンの両立を図りながらも、友人からは「どうしてそんなことに時間を割くのかわからない」と言われ、悩んだ時期もあった。

そんな時期に「環境首都をめざす自治体全国フォーラム」が開催された。これは、環境首都コンテストを通して得られた課題をテーマに、市区町村長と環境NGOが膝をつき合わせて環境政策について議論をする場である。首長のリーダーシップと住民参画を通して、環境自治体をつくっていかうというもの。全国から有志の市区町村長が集まり、自分の施策などを熱く語り合う会議。情熱を持って地域を語るその姿に「地域から変えていくのもおもしろいかもしれない」と思い始める。

■念願の地域の一員に

そんな小瀧さんは、ついに進路を変えた。国家公務員志望から、地方公務員志望へ。「地域から国を変えていく」そんな熱い思いで勉強に励んだ。今年春、その思いが実り、第一志望の吹田市の職員となった。子育てなどの政策が充実している吹田市で、働きたいと思ったからだ。今は、自分のその選択にとっても満足している。職員となった今も、交野市の環境基本計画の策定のために開かれていた会議に、ボランティアで参加するなど、環境市民の活動も続けている。「持続可能な社会を地域からつくる」を自分の目標にして、仕事、ボランティアの日々。「ドイツも地域から動き始めて、国を動か

したといえます。地域から国を動かす力になりたい」とその夢はまだ始まったばかりである。
(写真・インタビュアー 千葉有紀子)

編集後記

第10回で最終回を迎えた環境首都コンテスト。ニュースレターでの報告も10回目、そして最後の報告になります。最初の報告は2002年4月号(No.107)。当時はまだB5サイズ、特集もなく2ページの報告文にすぎませんが、そこにはコンテストが成長するものであること、そして将来、国内そして世界に誇れる「日本の環境首都」を育てる必要があることがちゃんと書いてあります。10年目にして改めて目標を達成したんだな～と実感しました。
(ニュースレター編集部/風岡 宗人)

編集部 (五十音順)

有川 真理子
上山 裕継
大槻 達郎
風岡 宗人
衣川 正和
久保 友美
坂部 安彦
角出 貴彦
鷹野 圭
武田 麻里
千葉 有紀子
松尾 俊介
村田 諒平
和氣 未奈
デザイン 智子
デサイ 智子



社員資格を取得して、総会へ行こう！

【重要】特定非営利活動法人 環境市民の「社員資格取得申告」についてのお願い

NPO 法人環境市民の定款では、会員のうち社員総会において議決権を有するものを「社員」と呼びます。環境市民会員はどなたでも登録いただくことができますが、社員になるためには「社員資格取得申告書」の提出が必要です。希望される方は、下記フォーマットの必要事項を記入して、郵送、FAX、e-mail のいずれかで京都事務局まで送付してください。あらたに社員資格を申請される場合、社員の期限は、申告書提出日から 2012 年 3 月 31 日となります。

今年も、6 月 18 日（土）に社員総会を開催しますので、ぜひ社員資格を取得の上、ご参加ください。

なお、2010 年度社員だった方で 2011 年 3 月 31 日までに継続の手続きをとっていない方は、新たに資格取得が必要です。

- NPO 法人環境市民定款社員に関する規定は第 11 ～ 15 条です。
ウェブサイトトップページ > 環境市民とは > 組織概要 > 定款

NPO 法人環境市民 社員資格取得申告書

NPO 法人 環境市民 代表理事 枚本 育生様

NPO 法人環境市民の社員資格取得を申告します。 2011 年 月 日

■住所：〒

■名前：

■電話：

■FAX：

■e-mail：()

📻 ラジオ番組「環境市民のエコまちライフ」 京都三条ラジオカフェ (79.7MHz)

身近な話題から旬の話題まで環境の視点から情報発信 ● 放送時間：毎週月曜午後 1:00 から 1:15 (再放送は火曜朝 7:00 から) インターネットでの試聴・ダウンロードはこちら → URL: <http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

環境市民に入会しよう！

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください！

会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

※ 年会費は一口以上

会費の振込み方法

- 1) 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- 2) ご入金を確認後、最新のニュースレター、入会記念としてポストカードをお届けします。

寄付をする

住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先

【郵便振替】 口座番号：01020-7-76578
加入者名：環境市民

(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 枚本 育生 (発行人) 堀 孝弘

TEL : 075-211-3521 IP 電話 : 050-3581-7492 FAX : 075-211-3531

E-mail : life@kankyoshimin.org URL : <http://www.kankyoshimin.org>

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル3階 (月から金午前 10:00 から午後 6:00)

● 環境市民 東海事務所

TEL&FAX : 052-521-0095

E-mail : tokai@kankyoshimin.org URL : <http://www.kankyoshimin.org/tokai/>

〒451-0062 名古屋市中区花の木 1-12-12 AOIビル4階

● 環境市民 滋賀事務所

TEL : 077-522-5837 E-mail : cefshiga@kankyoshimin.org

〒520-0046 大津市長等 2 丁目 9-12 笹 文彦気付



この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して植物油インキで印刷しました。印刷：(有) 祉書房

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。
「環境市民」登録商標 第4809505号



環境市民
Citizens Environmental Foundation

